

報道関係各位

2025 年 10 月 6 日
一般社団法人 日本サッシ協会
快適な住まい情報室

<日本サッシ協会 快適な住まい情報室 REPORT #03>
『夏の住まいユーザー意識調査レポート（窓リノベ）』
～窓リノベによる快適な住まい実現提案～

2025 年 7 月 3 日、一般社団法人日本サッシ協会（東京都港区、理事長：平能正三（三協立山株式会社 代表取締役社長））は、中立的・公益的な立場からウェルネスな暮らしの実現に資する住まいの情報提供を行う新たな情報発信チーム「快適な住まい情報室」を発足しました。

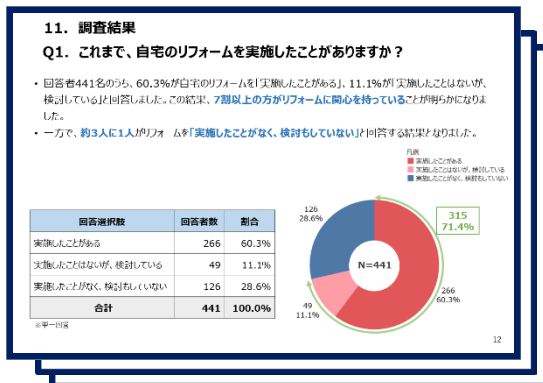
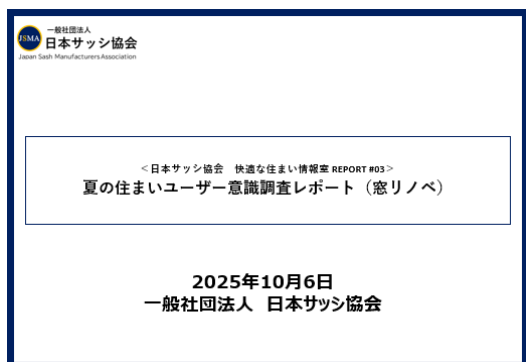
このたび、快適な住まい情報室では、築 20 年以上の戸建住宅にお住まいの方を対象とした「窓リノベに関する夏のユーザー意識調査」を実施しました。本調査では、夏の住環境における消費者の意識を把握することで、窓の断熱リフォームに関する価値観や潜在ニーズを探りました。



近年、夏の酷暑が常態化しており、断熱性能の低い住宅では室内温度が大幅に上昇し、熱中症などの健康リスクも高まっています。本レポートでは、築 20 年以上の戸建住宅にお住まいの方を対象としたリフォーム意識調査および、夏の住宅の快適性に関する調査、窓の断熱リフォームに関する調査等、全国の約 450 名に対してインターネットでのアンケート調査を実施しました。

◆快適な住まい情報室 REPORT #03

夏の住まいユーザー意識調査レポート（窓リノベ）





本資料は、日本サッシ協会ホームページよりダウンロード可能です。

・日本サッシ協会の以下のウェブページをご確認ください。

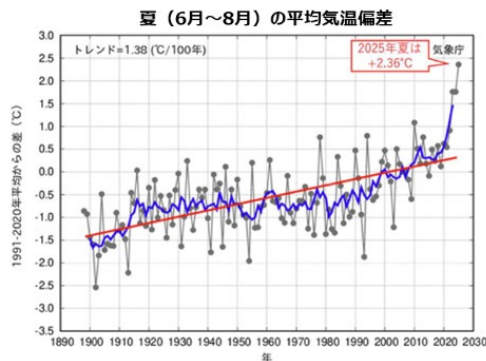
[https://www.jsma.or.jp/Portals/0/images/eco/johoshitsu/sumai_johoshitsu_03\(202510\).pdf](https://www.jsma.or.jp/Portals/0/images/eco/johoshitsu/sumai_johoshitsu_03(202510).pdf)

REPORT#03 の概要

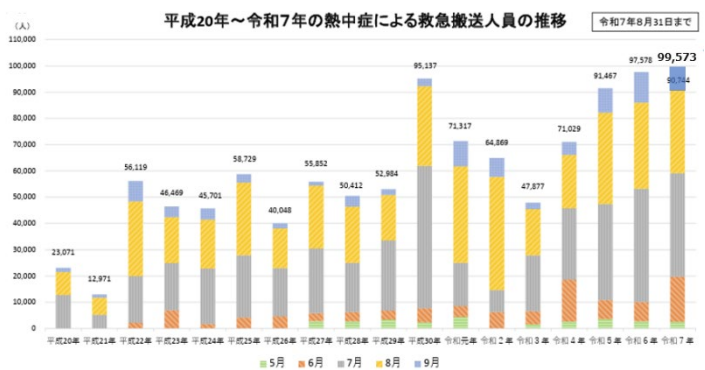
・ 2025 年 夏の猛暑を振り返り

日本の夏（6 月～8 月）の平均気温は、2025 年に過去最高値（基準値より+2.36℃）を記録し、1898 年の統計開始以来の最高記録を更新しました。気象庁の統計によると、日本の夏の平均気温は 100 年あたり 1.38℃のペースで上昇しています。

また、今年は「熱中症予防に関する喚起」が多くのメディアでも連日報道がありました。しかしながら、令和 7 年 5 月から 9 月まで（9 月 28 日までの速報値）の累計搬送人員は 100,143 人となり、平成 27 年の調査開始以降で一番多い記録となりました。



細線（黒）：各年の平均気温の基準値からの偏差、太線（青）：偏差の5年移動平均値、直線（赤）：長期変化傾向。

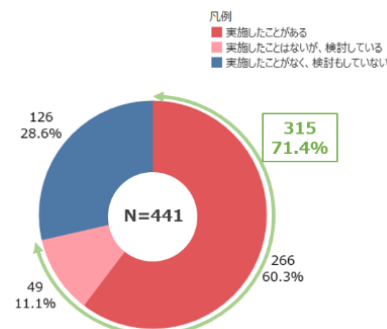


・ 築 20 年以上の戸建住宅の 6 割はリフォーム実施、一方 3 割は未検討の状況

回答者約 450 名のうち、60.3%が自宅のリフォームを「実施したことがある」、11.1%が「実施したことはないが、検討している」と回答しました。この結果、7 割以上の方がリフォームに関心を持っていることが明らかになりました。一方で、約 3 人に 1 人がリフォームを「実施したことがなく、検討もしていない」と回答する結果となりました。

回答選択肢	回答者数	割合
実施したことがある	266	60.3%
実施したことはないが、検討している	49	11.1%
実施したことがなく、検討もしていない	126	28.6%
合計	441	100.0%

※単一回答





一般社団法人

日本サッシ協会

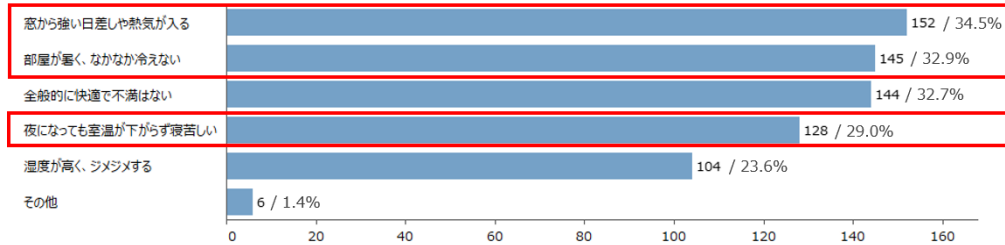
Japan Sash Manufacturers Association

PRESS RELEASE

● 夏の住宅における困りごととは、「窓からの日差しや熱気」

最も多かった悩みは「窓から強い日差しや熱気が入る」(34.5%)で、次いで「部屋が暑く、なかなか冷えない」(32.9%)、「夜になっても室温が下がらず寝苦しい」(29.0%)が続きました。一方で、回答者の3割以上(32.7%)は「全般的に快適で不満はない」と回答しています。

N=441



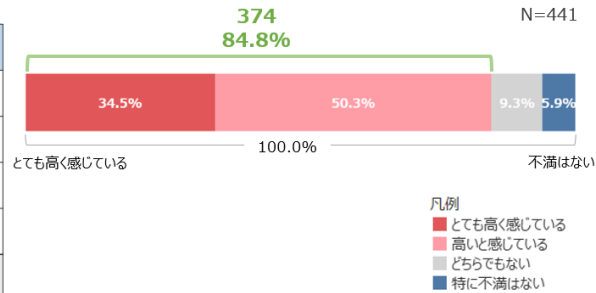
● 夏の電気代を高く感じている人は8割以上にも。

回答者の8割以上(84.8%)が「とても高く感じている」(34.5%)、「高いと感じている」(50.3%)と回答しました。一方で、「特に不満はない」と回答した方はわずか5.9%にとどまりました。

N=441

回答選択肢	回答者数	割合
とても高く感じている	152	34.5%
高いと感じている	222	50.3%
どちらでもない	41	9.3%
特に不満はない	26	5.9%
合計	441	100.0%

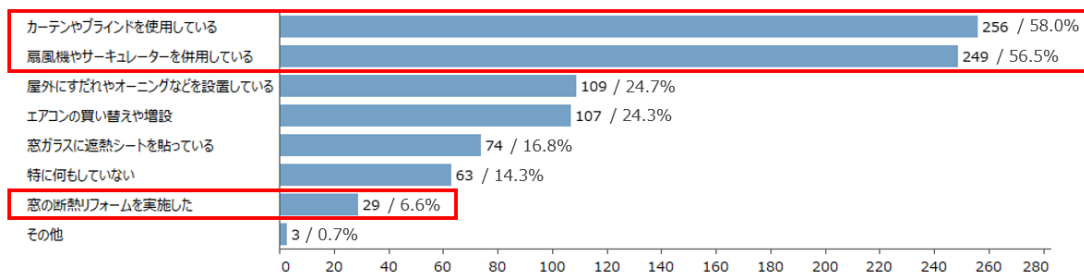
※単一回答



● 夏の住宅の暑さ対策の上位は、簡易的な対応が多く、窓の断熱リフォームは僅か6%程度

「カーテンやブラインドを使用」(58.0%)と「扇風機やサーキュレーターを併用」(56.5%)が、いずれも約6割を占め、最も一般的な対策であることが分かりました。一方で、「窓の断熱リフォーム」を実施した方は6.6%にとどまりました。

N=441





一般社団法人

日本サッシ協会

Japan Sash Manufacturers Association

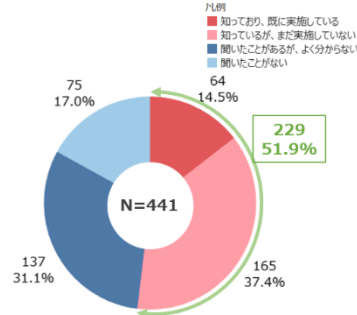
PRESS RELEASE

「窓の断熱リフォーム」の最新認知度を調査

「知っており、既に実施している」(14.5%)、「知っているが、まだ実施していない」(37.4%)を合わせると5割以上の方が「窓の断熱リフォーム」について認識していることが分かりました。しかし、認知度が高い一方で、実際にリフォームを実施している方はわずか14.5%にとどまりました。

回答選択肢	回答者数	割合
知っており、既に実施している	64	14.5%
知っているが、まだ実施していない	165	37.4%
聞いたことがあるが、よく分からない	137	31.1%
聞いたことがない	75	17.0%
合計	441	100.0%

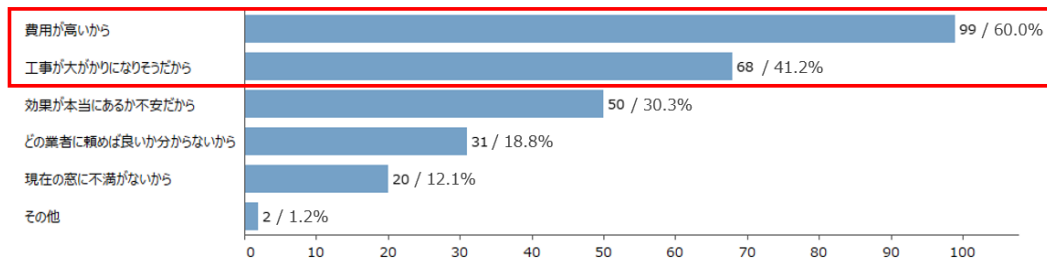
※単一回答



2022 年度の調査データでは「窓の断熱リフォーム」の認知度は 34.5%という結果があり、当時と比較して認知度は上がってきている状況です。

「窓の断熱リフォーム」を「知っているが、まだ実施していない」ユーザーの理由は、費用面と工事面のハードルが。

「費用が高いから」という理由が、他を引き離して最も多く、60.0% (99 名) を占めました。次いで、「工事が大がかりになりそうだから」(41.2%)、「効果が本当にあるか不安だから」(30.3%) が上位に挙げられました。一方で、「現在の窓に不満がないから」と回答した方は、12.1%でした。



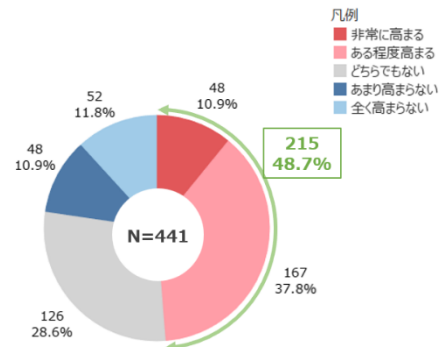
先進的窓リノベ 2025 事業」による補助金活用で導入を促進

「非常に高まる」(10.9%)、「ある程度高まる」(37.8%) を合わせると、約 5 割が窓断熱改修への意欲が高まると回答しています。

一方で、「あまり高まらない」「全く高まらない」と回答した方が2割以上いることが分かりました。

回答選択肢	回答者数	割合
非常に高まる	48	10.9%
ある程度高まる	167	37.8%
どちらでもない	126	28.6%
あまり高まらない	48	10.9%
全く高まらない	52	11.8%
合計	441	100.0%

※単一回答





一般社団法人

日本サッシ協会

Japan Sash Manufacturers Association

PRESS RELEASE

【まとめ】

今回の調査では、築 20 年以上の戸建住宅にお住まいの方が、夏の住環境について抱える具体的な課題、そしてその解決策である窓の断熱リフォームへの意識が明らかになりました。

1. 夏の住宅課題の主な要因

夏の住宅の快適性を損なう主な要因は、窓から入る強い日差しや熱気であることが分かりました。この熱気が室内温度の上昇やエアコンの効率低下、さらには睡眠不足といった連鎖的な課題を引き起こしており、夏の住環境における多くの課題が「窓」と深く関わっていることが示されました。

2. リフォームの課題と可能性

窓の断熱リフォーム未実施の理由について、「費用が高そう」「工事が大変そう」というイメージが先行していることが分かりました。これらの課題は、窓の断熱リフォームのメリットが消費者に浸透すれば、リフォームの普及が促進され、快適な住まいへと繋がる可能性も示しています。

3. 補助金の認知

国の補助金制度「先進的窓リノベ 2025 事業」について「全く知らない」と回答した人が約 6 割にのばりました。しかし、この制度を知った場合、約 5 割がリフォームへの意欲が高まると回答しており、費用面の不安が解消されれば、消費者の意識が大きく変わることが確認できました。

窓の断熱リフォームを普及させるには、リフォームのメリットを伝えるだけでなく、消費者が抱える費用や工事の懸念を同時にお伝えすることも重要だということが分かりました。

また、現在実施中である環境省による「先進的窓リノベ 2025 事業」を活用すると、窓の断熱改修にかかる費用のおよそ半額程度の補助金を受けることができるため、実質的な費用負担を抑えて高断熱窓を導入することが可能です。

窓の断熱改修が快眠環境の向上に大きく寄与する可能性があるにもかかわらず、その価値は消費者にまだ十分に認識されていません。

この重要な情報を広く消費者の方々に届けて頂きたい、取材・掲載のご検討をよろしくお願い申し上げます。

■過去のリリース内容について

7 月 3 日に、(一社)日本サッシ協会では、会員企業であるサッシメーカー 4 社が一丸となり、住まいの猛暑対策に向けて中立的・公益的な立場より情報を定期的に発信する「快適な住まい情報室」の設立について、リリースをさせていただきました。

■熱中症対策をはじめとした情報発信を目的とした「快適な住まい情報室」設立を発表

[https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000003.000155595.html](https://prt看mes.jp/main/html/rd/p/000000003.000155595.html)

■＜快適な住まい情報 #01_日本サッシ協会＞災害級の猛暑から命を守る！自宅の熱中症対策

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000004.000155595.html>

■＜快適な住まい情報 #02_日本サッシ協会＞断熱改修で夏の寝苦しさから解放！「快眠について」

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000006.000155595.html>



一般社団法人

日本サッシ協会

Japan Sash Manufacturers Association

PRESS RELEASE

◆日本サッシ協会について

1954年に当時の通産大臣許可を取得し社団法人日本サッシ協会として設立。サッシ、ドア、シャッターその他及びエクステリア等の住宅建材に関する性能、仕様の普及啓発、技術・品質及び規格に関する調査研究、防犯に関する普及啓発などを行うことにより、開口部建材製造業・流通業及び関連業の健全な発展、ひいては国民の住環境の向上に貢献する団体として活動を展開しています。

◆快適な住まい情報室について

2025年7月3日に、日本サッシ協会内に設立。会員企業であるサッシメーカー4社（三協立山（株）、不二サッシ（株）、（株）LIXIL、YKK AP（株））が一丸となり、中立的・公益的な立場から住まいの猛暑対策をはじめとした、ウェルネスな暮らしの実現に資する情報を定期的に発信するとともに、メディアの皆さまの取材対応窓口業務を行っています。（必要に応じて、各社の広報担当者におつながずすることも可能です。）

＜本件に関するお問い合わせ先＞

一般社団法人 日本サッシ協会「快適な住まい情報室」

代表電話：03-6721-5934／担当：事務局長 山本 yamamoto@jsma.or.jp

日本サッシ協会 HP：<https://www.jsma.or.jp/>